

平成25年7月30日(火)
平成25年度 第4回
大阪府河川整備審議会

資料
4-1

大和川水系西除川ブロック 河川整備計画(変更原案)について

西除川ブロック河川整備計画(変更原案)についての説明概要

■西除川ブロックの主な特徴

(治水面)

○平成22年6月に策定した「今後の治水対策の進め方」に基づき、流域内の各河川について治水目標及び治水手法に基づき、審議を行った結果、西除川(狭山池ダムより上流)にて「**耐水型整備区間**」を設定した。

(環境面)

○西除川ブロックでは、狭山池ダムほかため池が155箇所存在し、古くから利用が図られている。水量については、**取水堰からの農業用水の取水、段差により、瀬切れが発生し、魚類や水生生物の生育状況に影響を与えている。**

○狭山池ダムでは、洪水後や夏場の水量の少ない時期に止水域での富栄養化により**アオコが発生し、悪臭や水生生物への悪影響が生じている。**

○西除川ブロックの河川では、**河床低下の傾向が多く確認されている。**

○河川の水面利用については、アクセスとして部分的に階段やスロープがあるものの、**急激な水位上昇等に対する安全面が確保されていないことから、階段等に立入の制限をかけている。**

○西除川、東除川、落堀川では、環境基準の達成を目的とした「大和川清流ルネッサンス21計画」等に基づき、薄層流浄化施設、直接浄化施設の設置が行われている。



これまでの治水面の審議及び前回審議会の環境面の審議結果により、西除川ブロックに特化した項目について説明。

一級河川狭間川の審議について

一級河川狭間川につきましては、平成18年4月の政令指定都市への移行後は河川法第9条第5項に基づき堺市が管理していますが、平成17年5月6日に策定されました大和川水系西除川ブロック河川整備計画で大阪府管理河川として審議された経緯があることから、平成25年度の河川整備審議会の中で、狭間川の審議をお願いいたします。

* 河川法(抜粋)
(一級河川の管理)

第九条 一級河川の管理は、国土交通大臣が行なう。
(以下省略)

5 地方自治法(昭和二十二年法律第六十七号)第二百五十二条の十九第一項の指定都市(以下「指定都市」という。)の区域内に存する指定区間内の一級河川のうち国土交通大臣が指定する区間については、第二項の規定により都道府県知事が行うものとされた管理は、同項の規定にかかわらず、政令で定めるところにより、**当該一級河川の部分の存する指定都市の長が行うこととすることができる。**

一級河川 狭間川の概要

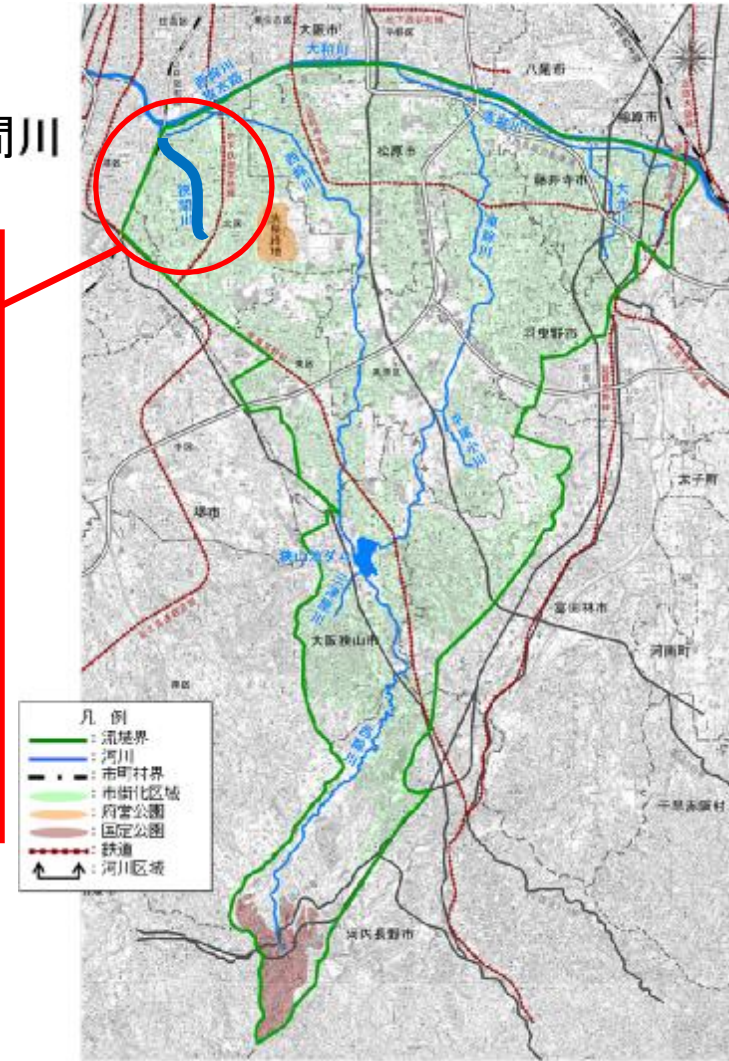
○流域の概要

流域面積: $A=7.68\text{km}^2$
指定区間延長 $L=2.34\text{km}$

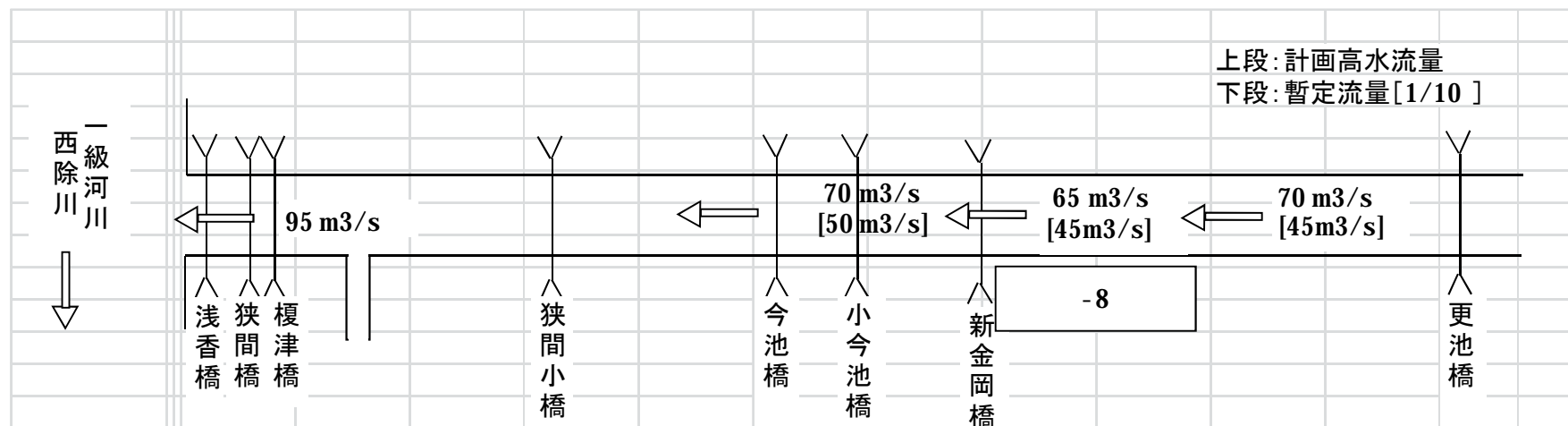
○流域図



狭間川



○流量配分図(参考図)



* 現在、治水計画の見直しを行っています。

浸水被害状況(H16.5.13)

H16年5月13日浸水被害

【浸水被害(流域内)】

- ・床上浸水 3戸
- ・床下浸水 37戸

【日最大1時間降雨量】

48mm(気象庁堺観測所)

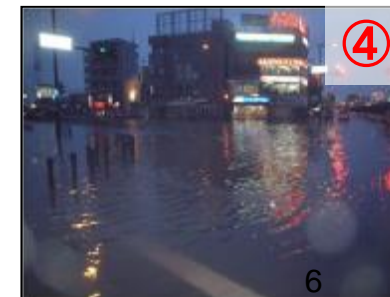
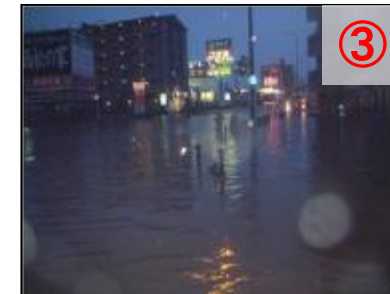
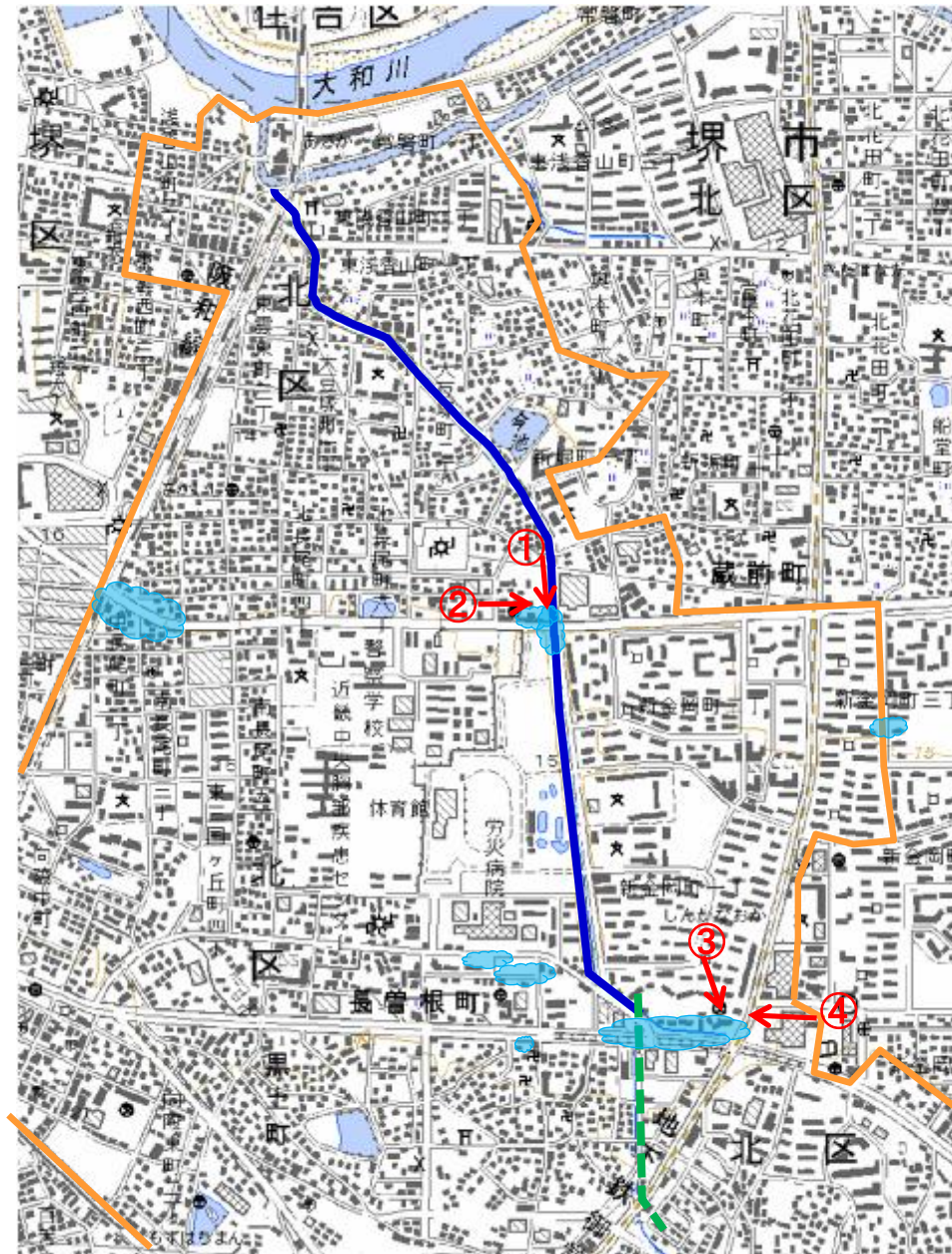


【H16年5月14日
朝日新聞】



凡例

- 一級河川狭間川
- - - 狭間雨水線 (都市下水路)
- 流域界
- 流域界
- ☁ 浸水範囲



現状と課題(一級河川狭間川)

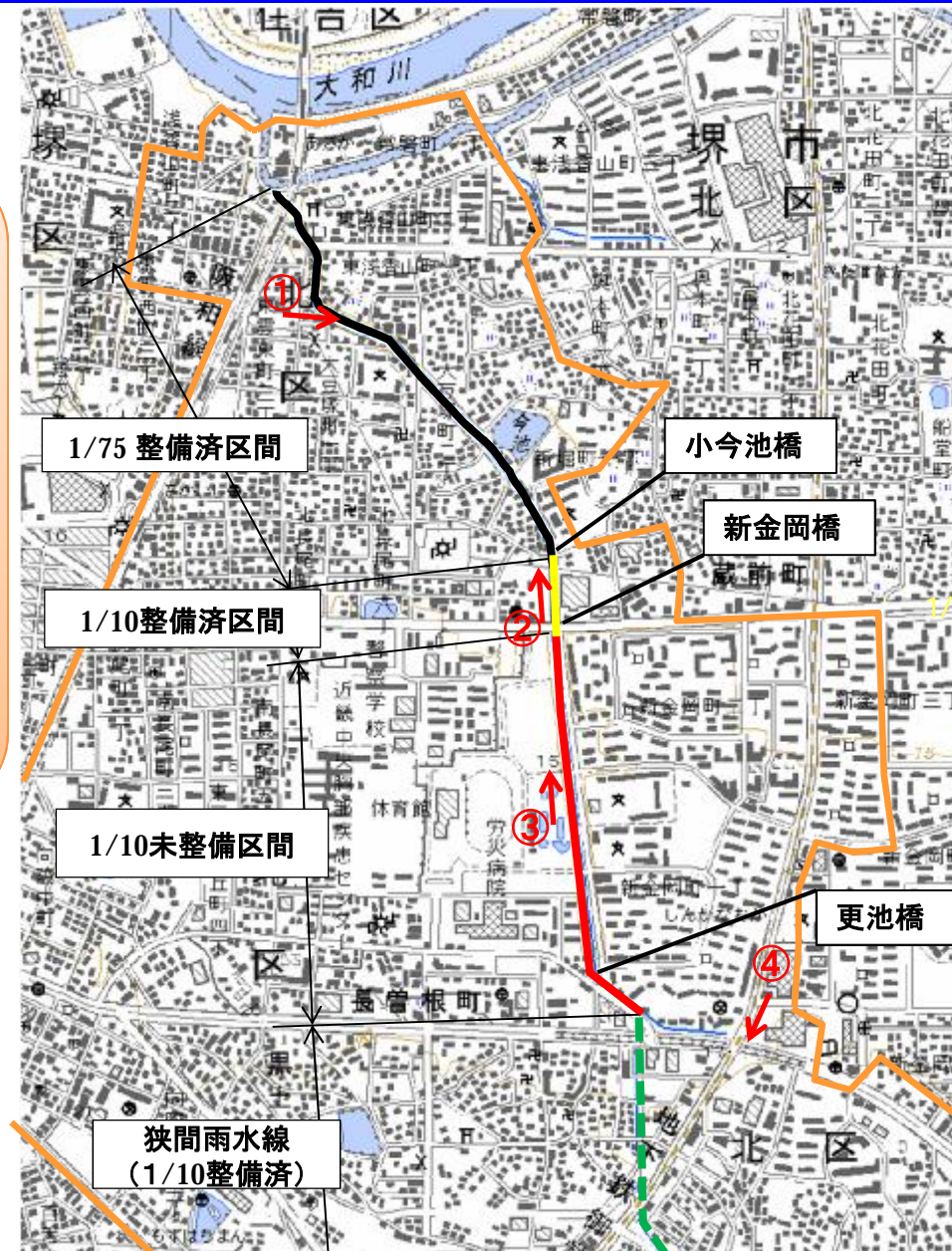
現状と課題

昭和57年豪雨を契機に下流部より整備を進め、小今池橋までの区間で1/75の整備が完了している(写真①)

小今池橋より上流部は、河川敷内に鉄塔が存在するため、河床掘削による1/10の整備を進めている(写真②)。

上流部の都市下水路(狭間雨水線)は、既に1/10の整備が完了している。

- 凡例
- 狭間川(1/75 整備済)
 - 狭間川(1/10 整備済)
 - 狭間川(1/10 未整備)
 - 狭間雨水線(1/10 整備済)
 - 流域界



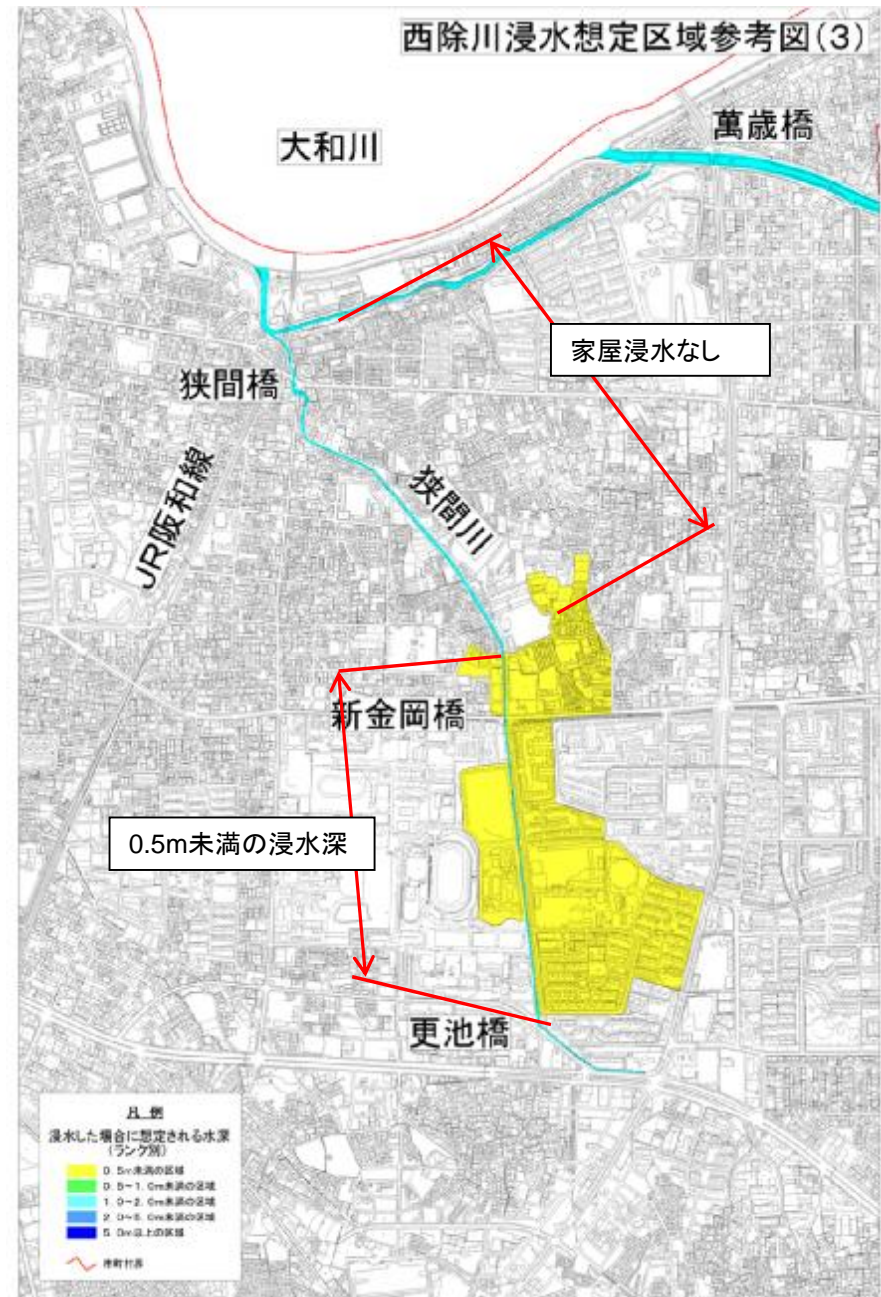
当面の治水目標の設定(一級河川狭間川)

■浸水想定区域図(既往資料調査)

- 平成16年3月時点での河道整備状況等を勘案し、時間80mm程度の降雨を想定して、狭間川が氾濫した場合の氾濫シミュレーション結果である。
- 計画降雨は西除川流域全体に24時間総雨量233.9ミリ、ピーク時の時間雨量75.8ミリとする。
- 氾濫計算に用いる計算メッシュは、250m格子として計算している。



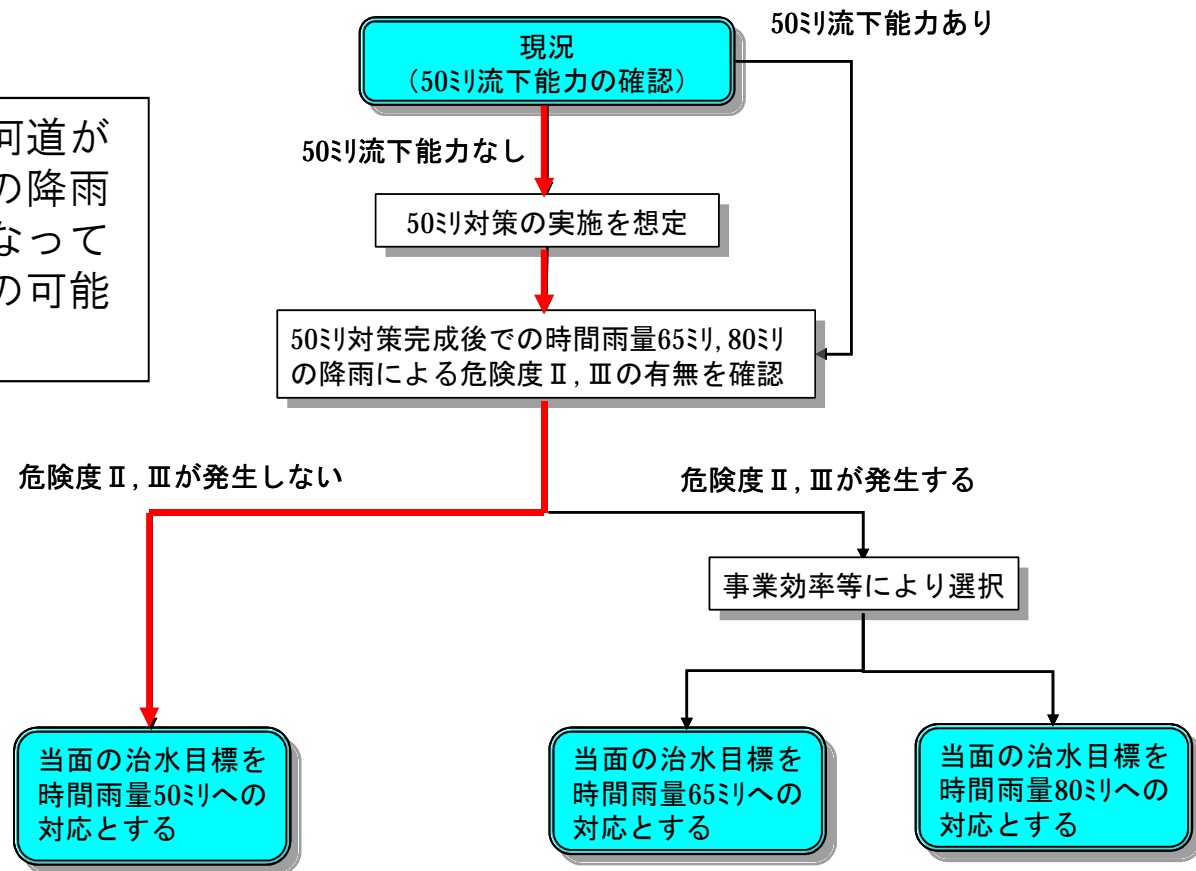
未整備区間においても時間雨量80mm程度の降雨に対して、浸水深が0.5m未満



当面の治水目標の設定(一級河川狭間川)

■当面の治水目標の設定フロー

○浸水想定区域図において、河道が未整備でも時間雨量80mm程度の降雨に対して浸水深が0.5m未満となっている。以上から危険度Ⅱ、Ⅲの可能性は低いと考える。



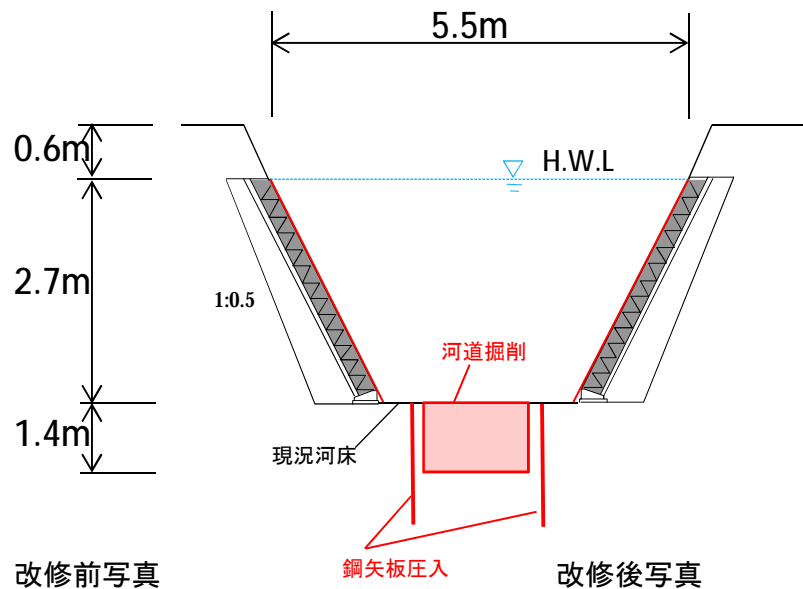
家屋浸水区間において時間雨量50mm程度
対応の河道改修を実施

整備手法(一級河川狭間川)

■整備手法

鋼矢板圧入による河床掘削を行うことで流下能力を向上させ、時間雨量50ミリの降雨に対して浸水被害を解消する。

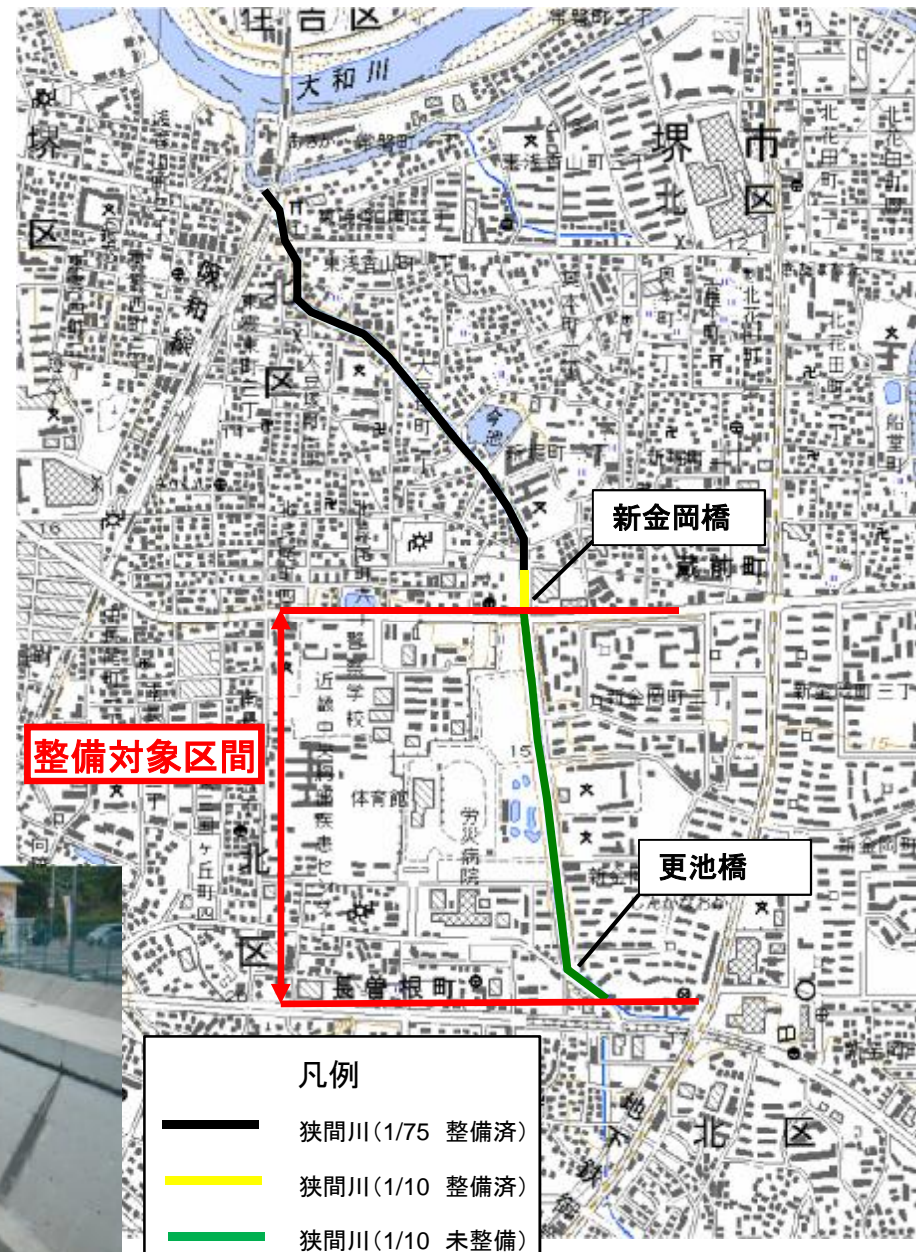
整備目標: 時間50ミリ程度、整備延長 約1.0km



改修前写真



改修後写真



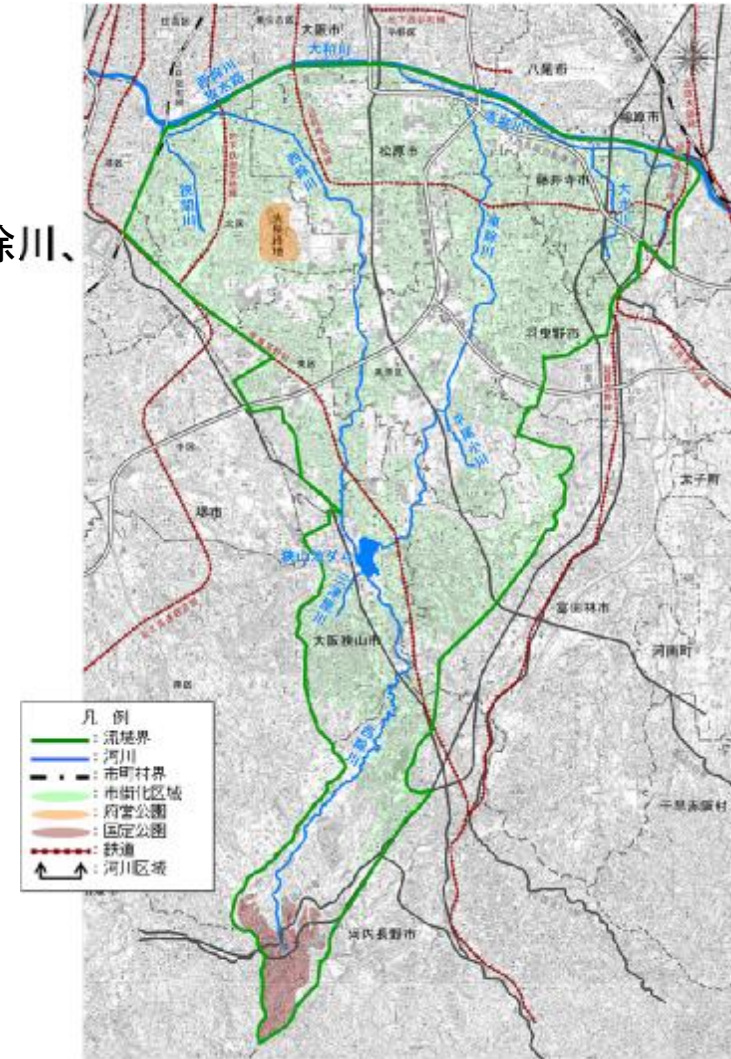
第1章 河川整備計画の目標に関する事項

第1節 流域及び河川の概要

1.流域の概要(p1)

○西除川ブロックは、一級河川大和川の左支川である西除川、東除川とそれらの支川流域から構成されています。

一級河川			河川延長 (km)
1次	2次	3次	
(西除川放水路)			0.1
西除川			23.3
	三津屋川		1.0
	狭間川		2.3
東除川			13.7
	落堀川		3.7
		大水川	2.5
	平尾小川		1.7



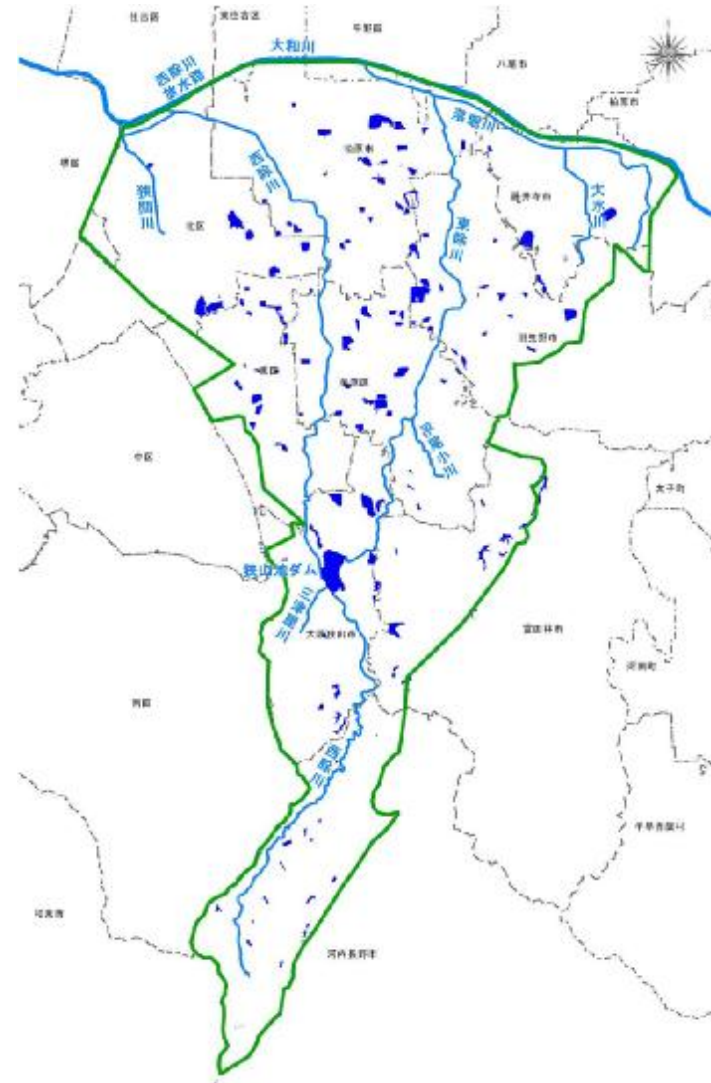
第1章 河川整備計画の目標に関する事項

第1節 流域及び河川の概要

1.流域の概要(p1)

○流域内には155か所のため池が点在しています。

ため池はかんがい用水を安定的に供給し、かんばつによる農作物を軽減するという利水上の重要な役割を果たしてきました。



第1章 河川整備計画の目標に関する事項

第1節 流域及び河川の概要

2.流域の特性(p2)

(1)自然環境特性

①西除川

○狭山池ダムより上流部の西除川上流部は、河川沿い竹林が多くみられます。また大阪狭山市東茶菓木の西除川旧河川敷周辺にヒメボタルが生息しており、「狭山ヒメボタルを守る会」を中心に保護活動や観察会が行われています。



第1章 河川整備計画の目標に関する事項

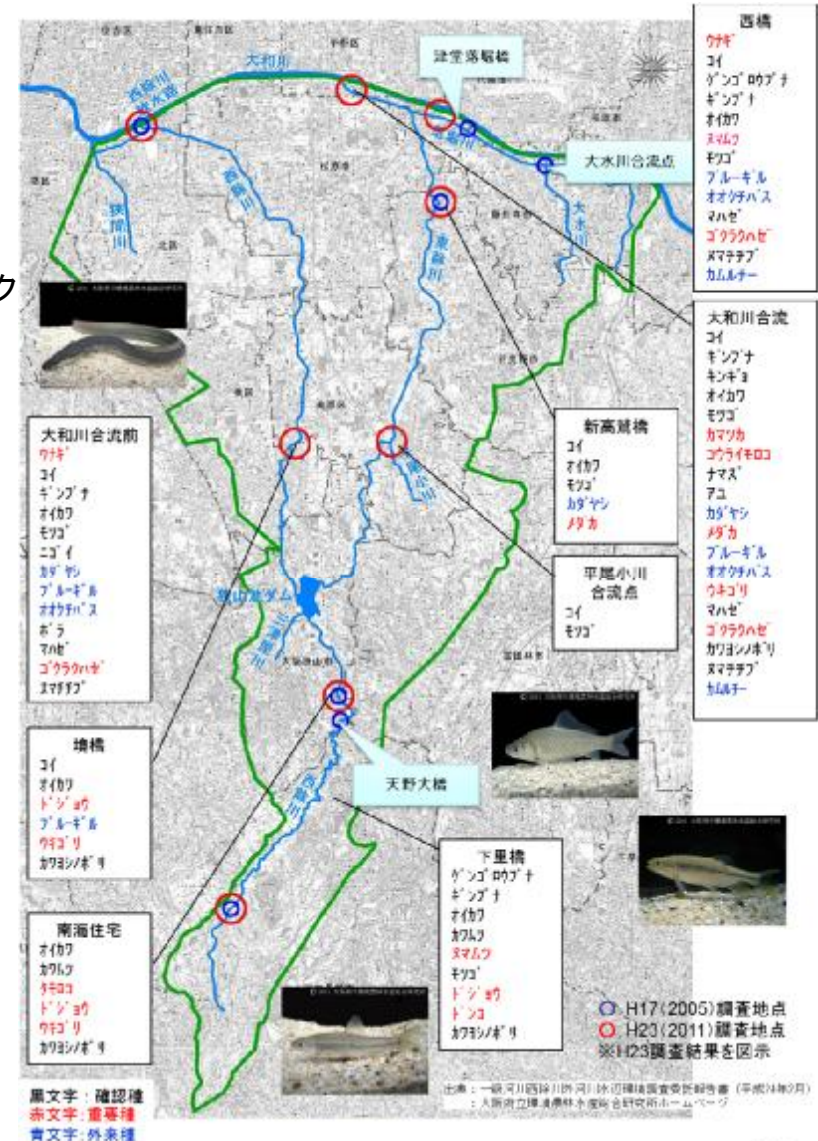
第1節 流域及び河川の概要

2.流域の特性(p3)

(1)自然環境特性

①西除川

○西除川ではオイカワ等21種の魚類が確認されています。重要種としては、ウナギ、ヌマムツ、タモロコ、ドジョウ、ドンコ、ウキゴリ、ゴクラクハゼが確認されています。外来種としては、カダヤシ、ブルーギル、オオクチバスが確認されていますが、いずれも大和川合流点付近での確認です。経年的には特に大和川合流地点周辺で回遊魚、汽水魚を中心に種の増加が見られます。



第1章 河川整備計画の目標に関する事項

第1節 流域及び河川の概要

3.河川の特徴(p6)

(1)西除川

大和川合流点より南海高野線までの西除川下流部は、川幅が20～30m程度、河床勾配が1/500～1/250程度でコンクリートブロック護岸の河川です。河床は低下傾向が見られます。

また、水質対策として薄層流浄化施設)の設置や、遊歩道等の親水整備も行われており、コンクリートブロック護岸の圧迫感を軽減しています。



大和川合流点～南海高野線



旧河川敷遊歩道整備箇所

第1章 河川整備計画の目標に関する事項

第1節 流域及び河川の概要

3.河川の特性(p6)

(1)西除川

南海高野線上流から狭山池ダムまでの西除川中流部は、川幅が10～20m程度、河床勾配1/250程度でコンクリートブロック護岸の河川です。周辺の地盤は高く、一部の区間では地すべり防止区域の指定地になっています。



西除川(南海高野線上流～狭山池ダム)

第1章 河川整備計画の目標に関する事項

第1節 流域及び河川の概要

3.河川の特長(p6)

(1)西除川

狭山池ダムはダム工事に併せ、遊歩道などの周辺環境整備も行われ、水と緑のオープンスペースとして利用されています。



狭山池ダム



第1章 河川整備計画の目標に関する事項

第1節 流域及び河川の概要

3.河川の特徴(p6)

(1)西除川

狭山池ダムより上流の西除川上流部では、川幅は約15m、河床勾配が1/400～1/250程度でコンクリートブロック護岸の河川です。南海金剛住宅付近では旧河川敷周辺にヒメボタル等もみられます。さらに上流では、周辺に田園風景が広がり、最上流部は、生駒金剛紀泉国定公園に指定されています。



西除川(狭山池ダム上流)

第1章 河川整備計画の目標に関する事項

第1節 流域及び河川の概要

3.河川特性(西除川以外の河川)



狭間川(西除川合流点～狭間小橋)



狭間川(狭間小橋上流～府道大阪中央環状線)



東除川(大和川合流点～落堀川合流点)



東除川(落堀川合流点上流～平尾小川合流点)



東除川(平尾小川上流)

第1章 河川整備計画の目標に関する事項

第1節 流域及び河川の概要

3.河川の特長(西除川以外の河川)



三津屋川



落堀川

第1章 河川整備計画の目標に関する事項

第2節 河川整備の現状と課題

1. 治水の現状と課題(p10)

河川名	現状	課題
西除川 (狭山池ダム下流)	昭和57年8月の台風10号により甚大な被害が発生。現在、時間雨量80ミリ程度の降雨を安全に流下させる改修を実施中	時間雨量80ミリ程度の降雨で危険度Ⅰ、Ⅱの被害が想定されることから、洪水に対する安全性を向上させる必要がある。
西除川 (狭山池ダム上流)	現在、時間雨量50ミリ程度の降雨を安全に流下させる改修を実施中	時間雨量50ミリ程度の降雨で危険度Ⅱ、Ⅲの被害が想定されることから、洪水に対する安全性を向上させる必要がある。(ただし危険度Ⅲは人命への影響を及ぼす被害は想定されない。)
東除川	昭和57年8月の台風10号により甚大な被害が発生。落堀川合流点より下流部では時間雨量80ミリ程度の降雨を安全に流下させる改修が完成済み。	時間雨量50ミリ程度の降雨で危険度Ⅰ、Ⅱの被害が想定されることから、洪水に対する安全性を向上させる必要がある。
落堀川	現在、大和川の背水対策を目的とした改修を実施中	大和川の背水の影響により、時間雨量65ミリ程度で危険度Ⅰの被害が想定されることから、大和川の背水対策を行う必要がある。
狭間川	現在10年に一度程度発生する恐れがある大雨に対応する改修を実施中	100年1度程度発生する恐れがある大雨に対して危険度Ⅰの被害が想定されることから、洪水に対する安全性を向上させる必要がある。

第1章 河川整備計画の目標に関する事項

第4節 河川整備計画の目標

1. 洪水、高潮等による災害の発生防止または軽減に関する目標(p17)

河川名	課題	目標
西除川 (狭山池ダム下流)	時間雨量80ミリ程度の降雨で危険度Ⅰ、Ⅱの被害が想定されることから、洪水に対する安全性を向上させる必要がある。	当面の治水目標は時間雨量80ミリ程度とする。
西除川 (狭山池ダム上流)	時間雨量50ミリ程度の降雨で危険度Ⅱ、Ⅲの被害が想定されることから、洪水に対する安全性を向上させる必要がある。(ただし危険度Ⅲは人命への影響を及ぼす被害は想定されない。)	当面の治水目標は時間雨量50ミリ程度とする。
東除川	時間雨量50ミリ程度の降雨で危険度Ⅰ、Ⅱの被害が想定されることから、洪水に対する安全性を向上させる必要がある。	当面の治水目標は時間雨量50ミリ程度とする。
落堀川	大和川の背水の影響により、時間雨量65ミリ程度で危険度Ⅰの被害が想定されることから、大和川の背水対策を行う必要がある。	大和川の背水対策を実施する。
狭間川	100年1度程度発生する恐れがある大雨に対して危険度Ⅰの被害が想定されることから、洪水に対する安全性を向上させる必要がある。	当面の治水も目標は時間雨量50ミリ程度とする。

第1章 河川整備計画の目標に関する事項

第4節 河川整備計画の目標

1. 洪水、高潮等による災害の発生防止または軽減に関する目標(p17)

○西除川放水路、三津屋川、大水川、平尾小川については、既に当面の治水目標を確保しています。

○耐水型整備区間について

耐水型整備区間では、市町村の関係部局と連携し、土地所有者等に対して、洪水リスク表示図による危険度について周知を行い、洪水氾濫の危険があることを認識してもらうとともに、新たなリスクを発生しないよう、建物の耐水化や土地利用誘導等の施策を推進していくこととします。

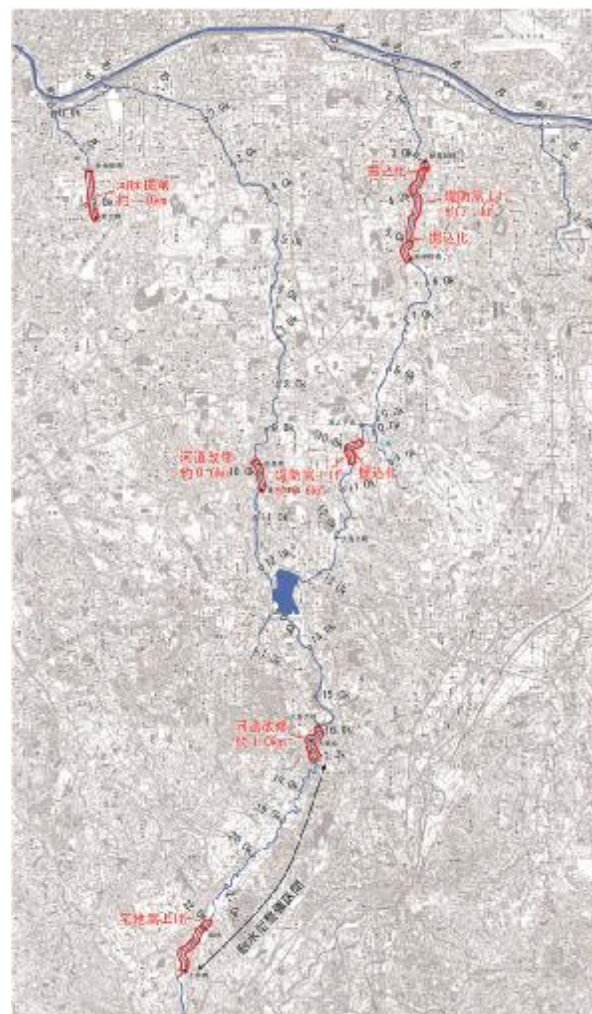
第2章 河川整備の実施に関する事項

第1節 河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに当該河川工事の施行により設置される河川管理施設の機能の概要

1. 洪水対策(p21)

整備対象区間

河川名	整備対象区間	整備延長
西除川 (狭山池ダムより下流)	改進橋～南海高野線 (9.9km～10.5km)	約 0.6km
西除川 (狭山池ダムより上流)	草沢橋～天野橋 (15.9km～16.9km)	約 1.0km
	天野橋上流～上条橋 (17.1km～22.8km)	約 5.7km
東除川	新高鷲橋～新伊勢橋 (3.5km～5.6km)	約 2.1km
	宮之下橋～大島池橋 (9.9km～10.5km)	約 0.6km
狭間川 ※堺市管理河川	新金岡橋～更池橋上流 (1.4km～2.4km)	約 1.0km

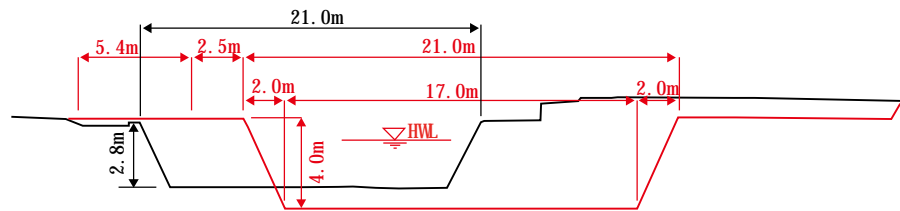


第2章 河川整備の実施に関する事項

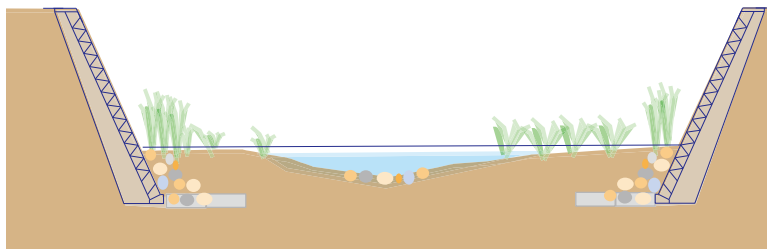
(1) 西除川(狭山池ダムより下流)の洪水対策(p23)

整備計画区間と整備内容

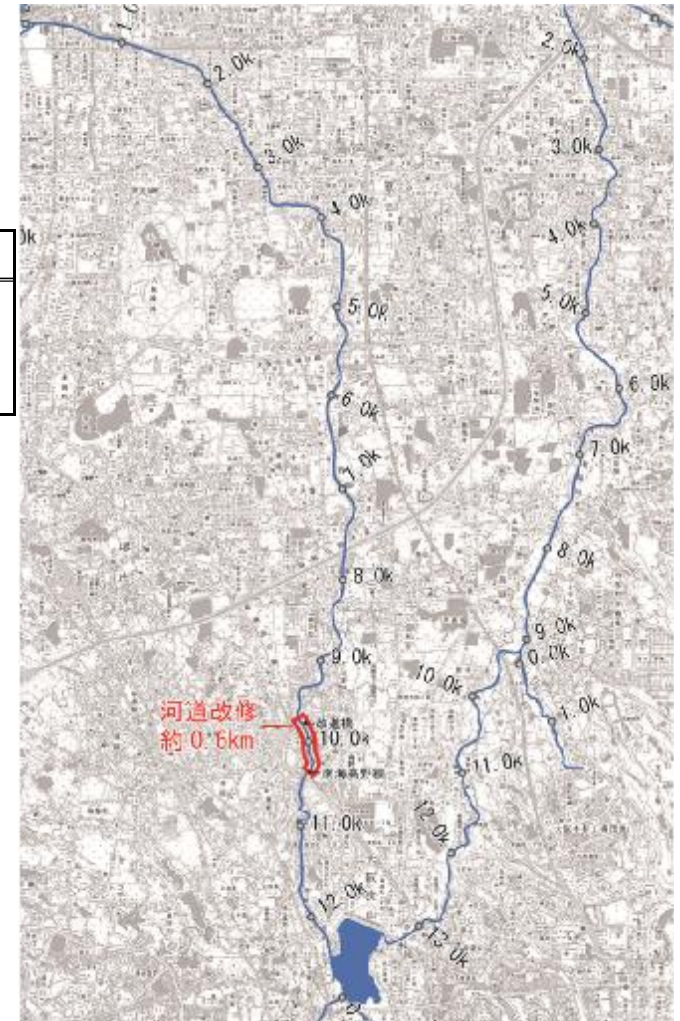
河川名	整備対象区間	整備内容
西除川 (狭山池ダムより下流)	改進橋～南海高野線 (9.9km～10.5km)	河道拡幅及び河床掘削により流下能力を確保します。 水際の植生回復等、多自然川づくりを行います。



整備断面例 (9.9km地点)



多自然川づくりイメージ図

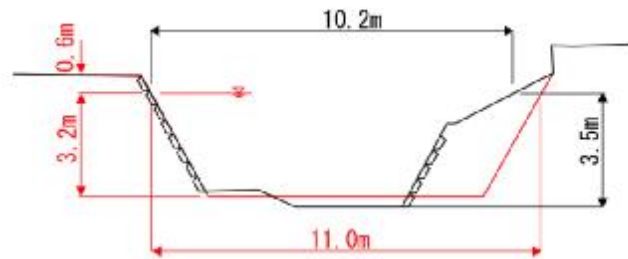


第2章 河川整備の実施に関する事項

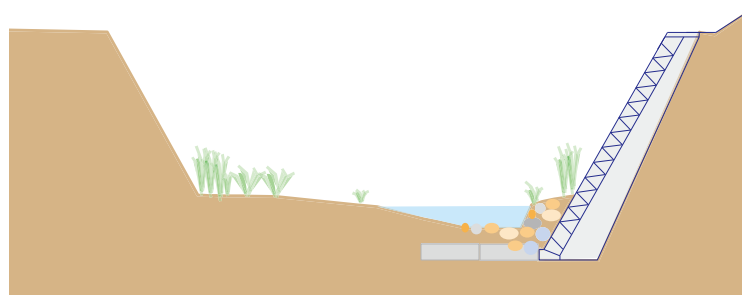
(2) 西除川(狭山池ダムより上流)の洪水対策(p24)

整備計画区間と整備内容

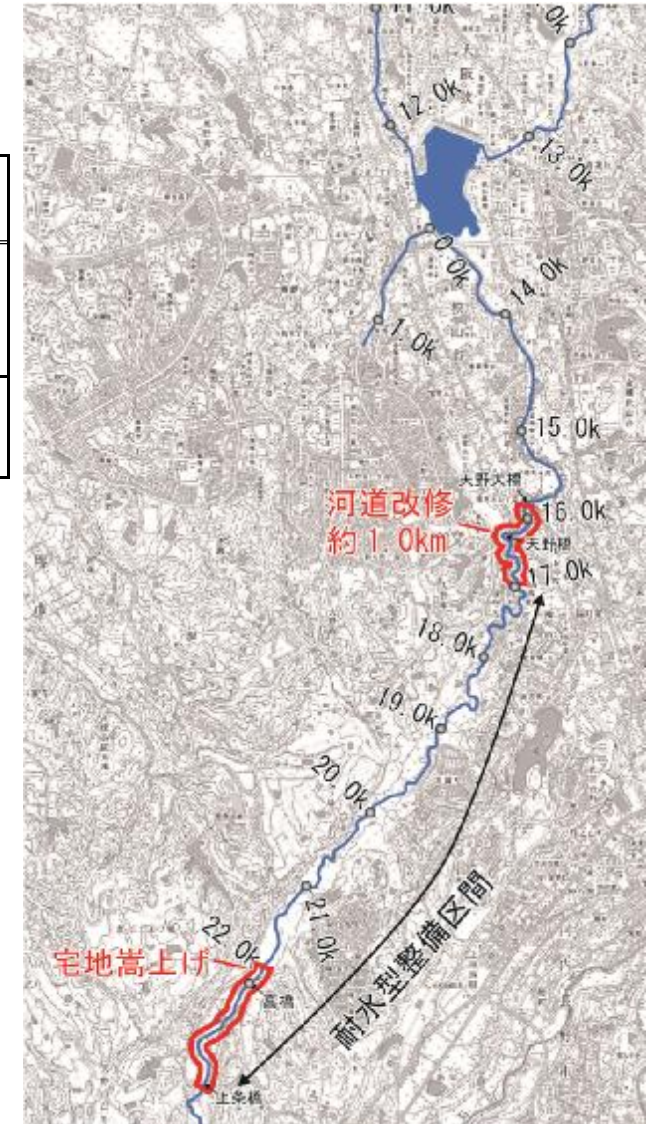
河川名	整備対象区間	整備内容
西除川 (狭山池ダムより上流)	草沢橋～天野橋上流 (15.9km～16.9km)	河道拡幅及び河床掘削により 流下能力を確保します。 水際の植生回復等、多自然川 づくりを行います。
	天野橋上流～上条橋 (17.1km～22.8km)	耐水型整備区間として、河川改 修のみではなく宅地嵩上げ等の 対策を検討します。



整備断面例 (16.5km地点)



多自然川づくりイメージ図

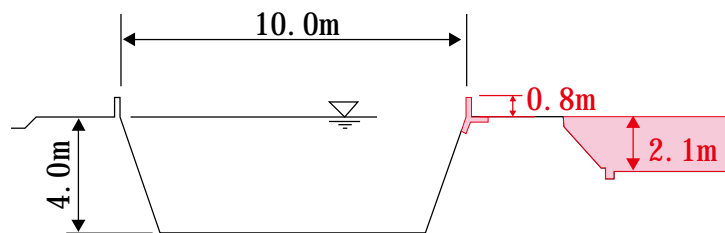


第2章 河川整備の実施に関する事項

(3) 東除川の洪水対策(p25)

整備計画区間と整備内容

河川名	整備対象区間	整備内容
東除川	新高鷲橋～新伊勢橋 (3.5km～5.6km)	築堤区間では破堤が生じる可能性があるため、堤内地の地盤高を嵩上げて掘込化を検討します。 掘込区間では、堤防の嵩上げを行い、流下能力を確保します。
	宮之下橋～大島池橋 (9.9km～10.5km)	築堤区間では破堤が生じる可能性があるため、堤内地の地盤高を嵩上げて掘込化を検討します。 掘込区間では、堤防の嵩上げを行い、流下能力を確保します。



整備断面例 (5.0km地点)

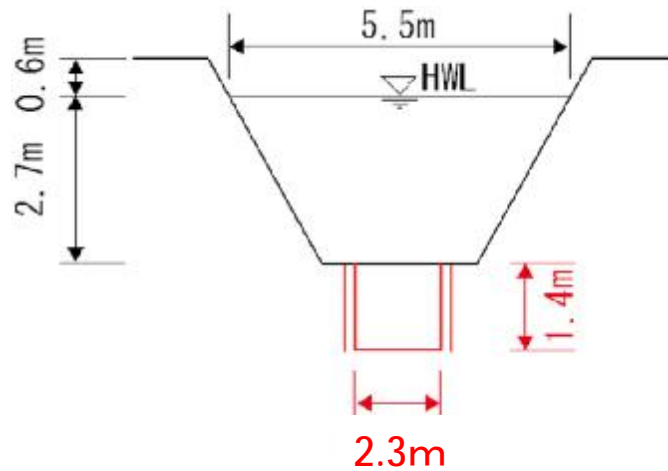


第2章 河川整備の実施に関する事項

(4) 狭間川の洪水対策(p26)

整備計画区間と整備内容

河川名	整備対象区間	整備内容
狭間川	新金岡橋～更池橋上流 (1.4km～2.4km)	鋼矢板圧入による根継工及び河床掘削を行います。



整備断面例 (2.0km地点)



第2章 河川整備の実施に関する事項

第1節 河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに当該河川工事の施行により設置される河川管理施設の機能の概要

2. 背水対策(p27)

整備対象区間

河川名	整備対象区間	整備延長
落堀川	新落堀橋上流～中橋上流 (0.3k～0.7k)	約0.4km

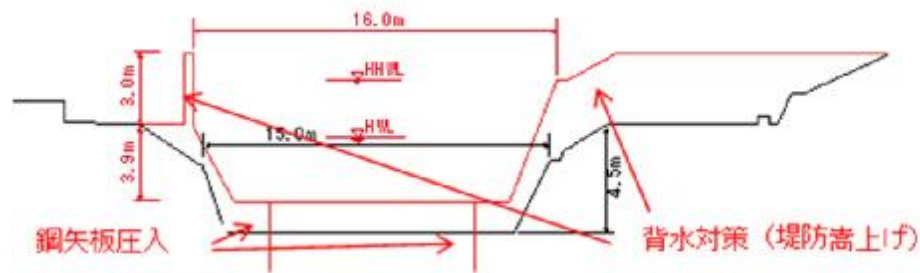


第2章 河川整備の実施に関する事項

(1) 落堀川の背水対策(p28)

整備計画区間と整備内容

河川名	整備対象区間	整備延長
落堀川	新落堀橋上流～中橋上流 (0.4km～0.8km)	約0.4km



整備断面例 (0.5km地点)



第1章 河川整備計画の目標に関する事項

第2節 河川整備の現状と課題

1. 治水の現状と課題(p10)

河川名	現状	課題
西除川ブロック	西除川ブロックの河川では河床低下の傾向があり、原因としては、過去の改修による両岸コンクリート化、河川の直線化等が影響していると考えられます。さらに曲線部では局所洗掘も見受けられます。	河床低下の影響により、護岸等、河川管理施設の安全性が確保できない可能性があり、河床低下や局所洗掘の対策が求められています。



河床低下に伴う根固めブロックの不陸



河道の直線化

第1章 河川整備計画の目標に関する事項

第4節 河川整備計画の目標

1. 洪水、高潮等による災害の発生の防止または軽減に関する目標(p18)

河川名	課題	目標
西除川ブロック	河床低下の影響により、護岸等、河川管理施設の安全性が確保できない可能性があり、河床低下や局所洗掘の対策が求められています。	河床低下及び局所洗掘については、必要な対策を行います。

第2章 河川整備の実施に関する事項

第2節 河川の維持の目的、種類及び施行の場所

1. 河川管理施設(p31)

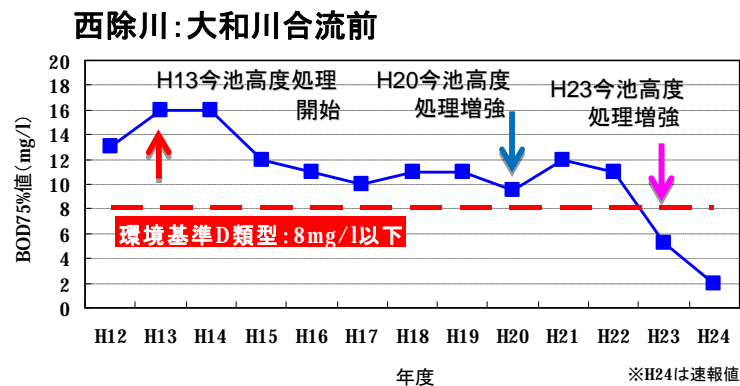
河川名	目標	実施
西除川ブロック	河床低下及び局所洗掘については、必要な対策を行います。	<p>西除川の狭山池ダムより下流部で顕著にみられる河床低下については、護岸際の河床洗掘が護岸崩壊につながることから、護床ブロックの設置等による河床洗掘対策を実施します。</p> <p>対策の実施にあたっては、点検結果やこれまでに集積したデータを元に、河床変動予測や曲線部等河道特性を踏まえた分析を行い河川管理施設の適切な対策工法、実施のタイミングについて検討し、河川管理施設の長寿命化につながる対策に努めます。</p>

第1章 河川整備計画の目標に関する事項

第2節 河川整備の現状と課題

1. 河川利用及び河川環境の現状と課題 (p12)

項目	現状	課題
(1)水質	<ul style="list-style-type: none"> ・西除川、東除川、落堀川では、下流部で薄層流上下施設、直接浄化施設を整備。 ・近年の水質は改善傾向にあり、西除川や東除川のBOD75%値は環境基準を満足しています。 ・狭山池ダムでは、洪水後や夏場の水の少ない時期において、止水域で富栄養化によるアオコが発生し、悪臭の原因となるほか、水生生物への影響が懸念されています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境基準達成、さらに高い目標に向かっての水質改善を進める必要があります。 ・アオコ発生原因について、流域を含めて調査し、その対策について検討する必要があります。



狭山池ダム アオコ発生状況(西除川流入部)

第1章 河川整備計画の目標に関する事項

第2節 河川整備の現状と課題

1. 河川利用及び河川環境の現状と課題(p13)

項目	現状	課題
(2)水量	平成11年の西除川金剛橋地点の濁水流量が $0.1\text{m}^3/\text{s}$ 、低水流量が $0.13\text{m}^3/\text{s}$ となっている。水量は少なく、農業用井堰等の河川横断構造物による瀬切れが発生しており、魚類や水生生物の生息状況に影響を与えています。	魚類や水生生物の生息環境の面から水量の確保が課題となっています。



農業用井堰による瀬切れの状況

第1章 河川整備計画の目標に関する事項

3. 河川環境の整備と保全に関する目標(p18-19)

河川名	課題	目標
(1)水質	<ul style="list-style-type: none">・環境基準達成、さらに高い目標に向かっての水環境改善を進める必要があります。・アオコ発生原因について流域も含めて調査し、その対策について検討する必要があります。	<ul style="list-style-type: none">・河川浄化施設による水質改善効果等を検証し、今後の運用の適切な効率化を図ります。・良好な水環境及び生物の生息、生育環境の確保に向けてアオコ対策に取り組みます。

河川名	課題	目標
(2)水量	魚類や水生生物の生息環境の面から水量の確保が課題となっています。	魚類や水生生物の生息状況の確認を行い、河川横断構造物を改修した場合の効果検証を行い、農業関係機関との協議により適正な水量のみの取水による河川の維持管理流量確保、河川横断構造物の改修等、河川の魚類や水生生物のより適切な生育環境の配慮に努めます。

第2章 河川整備の実施に関する事項

4. 河川環境の整備と保全(p30-31)

(3)水質の改善

河川名	目標	実施
(1)水質	<ul style="list-style-type: none">・河川浄化施設による水質改善効果等を検証し、今後の運用の適切な効率化を図ります。・良好な水環境及び生物の生息・生育環境の確保に向けてアオコ対策に取り組めます。	<ul style="list-style-type: none">・これまで整備されてきた直接浄化施設や薄層浄化施設については、運用の適切な効率化に努めます。・アオコ発生原因について、流域も含めて検討し、必要な対策を実施します。

第2章 河川整備の実施に関する事項

4. 河川環境の整備と保全(p29)

(1) 河川における連続性の確保

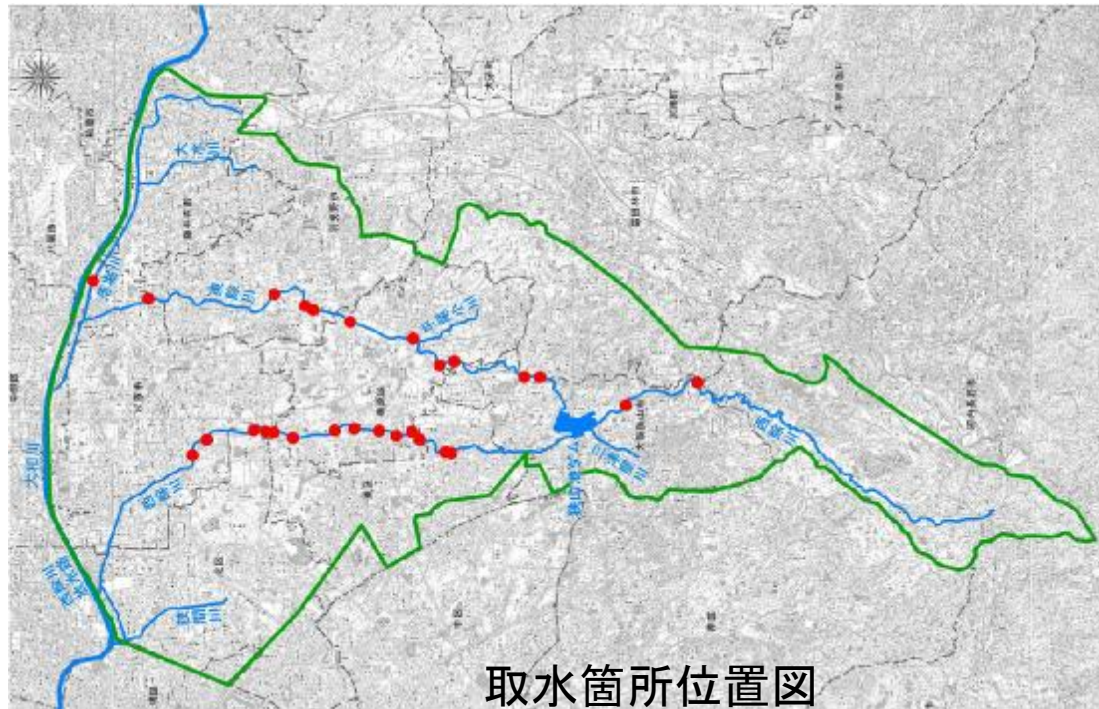
河川名	目標	実施
(2)水量	魚類や水生生物の生息状況の確認を行い、河川横断構造物を改修した場合の効果検証を行い農業関係機関との協議により適正な水量のみの取水による河川の維持管理流量確保、河川横断構造物等の改修等、河川の魚類や水生生物のより適切な生育環境の配慮に努めます。	取水堰や落差工等の河川横断構造物の利用実態の把握に努め、利用実態のない、取水堰の撤去や落差工の改修と併せて水域の連続性の確保に努めます。 また、整備にあたっては、流域市や地域住民等と協力して、水生生物の生息・生育状況の確認や整備効果の予測・検証を行っていきます。

第1章 河川整備計画の目標に関する事項

第2節 河川整備の現状と課題

1. 河川利用及び河川環境の現状と課題(p14)

項目	現状	課題
(3)水利用	古くから狭山池などのため池や河川・水路及び取水堰を活用した水利用が行われています。	今後も安定的な水資源の確保に向け、適正かつ効率的な水利用が図られるよう努める必要があります。



取水箇所位置図

河川	番号	取水施設名称
西除川	1	東代井堰
	2	高見井堰
	3	河合下流井堰
	4	河合上流井堰
	5	野遠井堰
	6	今井井堰
	7	薬師井堰
	8	西溝井堰
	9	太井井堰
	10	大妻井堰
	11	から井堰
	12	野田井堰
	13	池内新開堰
	14	羊田井堰
東除川	15	戸開井堰
	16	伊勢橋井堰
	17	古井堰
	18	河原城原田井堰
	19	多治井井堰
	20	小平尾井堰
	21	平尾井堰
	22	福井橋上流井堰
	23	五軒家井堰
	24	五軒屋上流井堰
薄堀川	25	若林井堰

第1章 河川整備計画の目標に関する事項

2.河川の適切な利用及び流水の正常な機能の維持に関する目標(p18)

河川名	課題	目標
(3)水利用	今後も安定的な水資源の確保に向け、適正かつ効率的な水利用が図られるよう努める必要があります。	河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関しては、今後とも、適正かつ効率的な水利用が図られるよう努めます。

第2章 河川整備計画の実施に関する事項

3. 河川の適切な利用及び流水の正常な機能の維持(p29)

河川名	目標	実施
(3)水利用	河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関しては、今後とも、適正かつ効率的な水利用が図られるよう努めます。	流水の正常な機能の維持し、適正な河川管理を行うため、継続的な雨量、水位の観測データの蓄積と分析による水量の状況把握を行います。

第1章 河川整備計画の目標に関する事項

第2節 河川整備の現状と課題

1. 河川利用及び河川環境の現状と課題(p14)

項目	現状	課題
(4)空間利用	<ul style="list-style-type: none">・河川の空間利用としては、西除川で旧河川敷を利用した遊歩道を整備しています。・河川の水面活用については、河川内のアクセスするための階段やスロープが部分的にあるものの、急激な水位上昇等に対する安全面が確保されていないことから、階段等に立入りの制限をかけています。	地域からの要望がある箇所については、河川の水面活用ができるよう必要な安全対策を講じる必要があります。



西除川旧河川敷遊歩道整備



階段護岸

第1章 河川整備計画の目標に関する事項

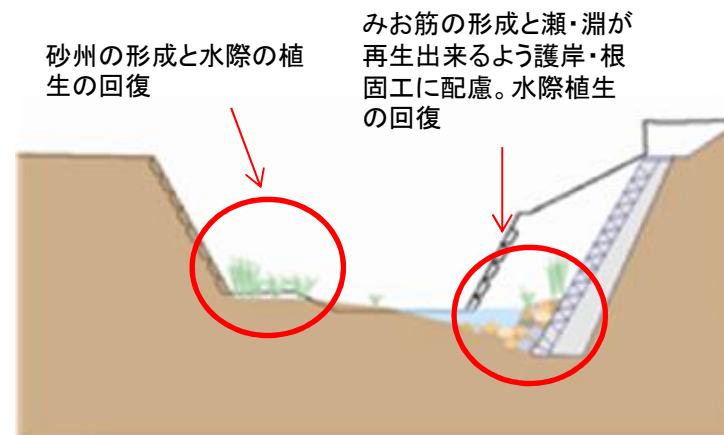
第2節 河川整備の現状と課題

1. 河川利用及び河川環境の現状と課題(p15)

項目	現状	課題
(5) 自然環境	<ul style="list-style-type: none">・西除川ブロックの河川には、取水堰や床止め等多くの河川横断構造物が設置されており、生物の移動に影響を与えています。・西除川ブロック内の河川は、改修済区間は全体的に河川が直線で、河床は平坦で瀬と淵等の多様性に乏しい環境となっています。	<ul style="list-style-type: none">・生物の多様性を確保するためには、上下流の連続性を確保する必要があります。・未改修区間の改修においては、現状の保全に配慮の上、多自然川づくりを導入し、瀬と淵、水際植生の再生・回復等を図る必要があります。



取水堰の段差が大きく、移動に影響をあたえている。



多自然川づくりの例

第1章 河川整備計画の目標に関する事項

3. 河川環境の整備と保全に関する目標(p18-19)

河川名	課題	目標
(4)空間利用	地域からの要望がある箇所については、河川の水面活用が出来るよう必要な安全対策を講じる必要があります。	河川の水面活用については、親水空間整備箇所を安全に利用できる環境づくりを行います。

河川名	課題	目標
(5)自然環境	<ul style="list-style-type: none">・生物の多様性を確保するためには、上下流の連続性を確保する必要があります。・未改修区間の改修においては、現状の保全に配慮の上、多自然川づくりを導入し、瀬と淵、水際植生の再生・回復等を図る必要があります。	<ul style="list-style-type: none">・河川整備を実施する際には、緑化や多自然川づくりの必要性を検討の上、現況河道を活かし、魚類や水生生物等の生息場となる瀬と淵や、生息環境の多様化に配慮した水際植生の保全・再生を行います。・西除川の狭山池ダム下流は、周辺に住宅地が密集している地域における連続するオープンスペースであるとともに動植物の貴重な生息・生育の場となっています。河川整備にあたっては、護岸の修景等、景観に配慮するとともに、魚類の生息場として大切な瀬や淵を活かすなど、水際の変化に留意します。・西除川の狭山池ダムより上流は、現況河道を活かした瀬や淵の保全・創出等により、保護上重要なヌマムツやドンコなどの生息環境に配慮するとともに、水際の植生の保全・再生を図ります。

第2章 河川整備の実施に関する事項

第2節 河川の維持の目的、種類及び施行の場所

3. 河川空間の管理(p32)

河川名	目標	実施
(4)空間利用	河川の水面活用については、既存の親水空間整備箇所を安全に利用できる環境づくりを行います。	地域から要望のある箇所については、地域住民等と協議の上、急激な増水に対する注意看板設置等の安全対策を施すことで、親水空間整備箇所を安全に利用できる環境づくりを目指します。

第2章 河川整備の実施に関する事項

4. 河川環境の整備と保全(p30)

西除川の今井南橋下流では、旧河川敷を利用して遊歩道整備を行います。



西除川旧河川敷遊歩道整備



遊歩道整備状況

平成25年7月30日(火)に配布した資料に誤りがありましたので、修正したものを掲載しております

資料番号	修正箇所	修正前	修正後
資料4-1	28ページ 断面図の寸法	河床の寸法 1.3m	河床の寸法 2.3m